特集 I

マヌカハニー特集

ハチミツへの概念が変わる！マヌカハニーへの期待

高い抗菌活性をもつ特別なハチミツであるマヌカハニー。口臭予防や、胃のピロリ菌除去、腸内環境改善において優れた機能性が明らかになっている。国内ではかなり前から流通しているが、認知度不足を指摘する声もある。そうした中で一部業者から協会設立に向けた動きも見受けられた。根強いリピーターが多いことからも、体感性は十分。新規顧客開拓を目指す2大メーカーに話を聞いた。

ハチミツは古くから、菌を殺す力が期待され傷口に塗る風習等があった。

ハチミツの中でも高級品と位置づけられるマヌカハニーはニュージーランドに自生しているマヌカの花から取れる。

現在もニュージーランドで▽創傷治療▽口臭予防、歯周病、口内疾患、扁桃腺炎の治療▽皮膚疾患（ニキビなどを含む）の治療▽十二指腸潰瘍、胃潰瘍、胃がんの予防・治療▽糖尿病の併発症、長期療養患者の床擦れによる皮膚疾患の治療目的に使用されている。

通常のハチミツよりも機能性が期待でき、高価格品という印象がある。ハチが媒介する植物であるマヌカ自体、自生地域はニュージーランドという限られた地域であり、希少価値が高いからだ。

そして、マヌカハニーには通常のハチミツでは考えられない特別な機能性があるが、特に注目されるのは、抗菌活性による口臭抑制作用やピロリ菌抑制などである。見た目も味も、通常のハチミツと大差はないのだが、その機能性は実に高い。

しかし、長い間、流通している割には大型商材になりきれていないのは、通常のハチミツとの差別化が、消費者に伝わっていないことが大きいと考えられる。

この点を懸念したマヌカハニー取り扱い企業から、マヌカハニーの普及と認知拡大を目的とした「マヌカハニー協会（仮名）」の設立を提案している声が今回の取材で明らかになった。同じ分野でプロポリスでは日本プロポリス協会があり、ローヤルゼリーには全界が一致団結して市場を力づけていく考えがあるようだ。

マヌカハニーはリピーターがつきやすく、それが長年、市場を維持できているが、今後の課題としてはやはり新規顧客の開拓だと言える。

その上で今後、マヌカハニーの市場動向で注目していきたいのは、今、伸び盛りの販路である医家向けルートである。加えて、口腔内の環境を改善するという意味で歯科医からも注目され始め、関連商材の売れ行きが急増しているのだ。

全体の市場は小さいが、医療関係者が注目するほどの素材であるということは確かな健康食品であると十分、位置付けられる。

『マヌカ』を知れば、ハチミツへの概念が変わる！」。

そんな展開を期待したい。

国ローヤルゼリー公正取引協議会があるように、マヌカハニーも協会を立ち上げることで、業

トピック①

マヌカハニーの抗菌力を測定する指標は2つ

■UMF（Unique Manuka Factor）

UMF商標は、AMHA（Active Manuka Honey Association：アクティブ・マヌカ・ハニー協会）により創設され、ハチミツがUMF抗菌作用の特定レベルに達していることを証明するもの。AMHAによる分析検査を受け、その作用を実証された製品にのみUMF評価が与えられる。

■MGO（メチルグリオキサール）

マヌカハニーには抗菌活性が証明されており、その強度をUMFとして表示されている。ドイツ・ドレスデン大学のトーマス・ヘンレ教授の研究により、この抗菌活性物質がMGO（メチルグリオキサール）であることが特定された。

◆◆◆

シクロケムは提案としてマヌカハニーの普及・知名度の向上を目的とした「マヌカハニー協会（仮名）」の設立を検討しており、実現できれば国内のマヌカハニー取り扱い事業者と一丸となり、市場の成長を目指していきたい考えだ。

トピック②

ネットの悪徳サイトを信じちゃダメ！

数多くの研究実績を持つマヌカハニーだが、一部のサイト（ハチミツメーカー）で、マヌカハニーに問題性を投げかけ、自社製品との差別化を図っているサイトがある。内容が内容だけに、マヌカハニー取り扱い事業者からは憤慨の声が挙がっている。

その内容はマヌカハニーに含まれるMGOが発がん性物質だと指摘するなどしているものだ。サイト上では発がん性物質だという指摘はIARC（世界がん研究機構）での内容を元にしている表記とともに小さい文字で（レベル3に分類）と書かれている。

IARCでは様々な成分に対して発がん性の測定を行っている。人に対する発がん性が認められるものがグループ1、発がん性のおそらく無いものはグループ4の4段階評価だ。抗菌活性のあるマヌカハニーはこのうち、「発がん性が分類できない」グループ3に該当する。同じく身近なものでグループ3に該当するものとしてわさび成分、ミカンやレモンなど柑橘類に含まれるリモネン、チューインガムに使用される樹脂、コレステロールもここに属する。サイト上ではレベル3に分類と書かれているが、そもそもこの〝レベル〟という表記が間違っているだけでなく、グループ3は発がん性が分類できないものであるにも関わらず、発がん性のある物質と書かれている。消費者に対して余計な不安をあおることにもつながる。このようないいかげんな悪徳サイトを信じてはいけない。

高い抗菌活性、美肌作用も

コサナ

シクロケムの関連会社であるコサナ（東京都中央区、☎03・5643・1537）は、「マヌカハニー」を取り扱う。

天然の抗菌成分「メチルグリオキサール（MGO）」の含有量を表示している各種マヌカハニー製品を百貨店を中心とした販路で販売しているほか、歯磨き粉としても製品化され、現在市場に流通している。

マヌカハニーの効果の一つとして口臭予防があるところ、より低い濃度で菌の増殖を防ぐことが明らかになっている。一方で歯周病菌のギンギバリス菌に対してもミュータンス菌と同様に有効性を示すということがマヌカハニーで確認されている。虫歯菌と歯周病原菌の両方に効果がある食品はハチミツに限らず珍しく、口臭予防効果も他社口臭予防製品と比較して、有意に優れた効果が確認されている。

マヌカハニーの持つ抗菌力は口内ケアだけでなく、胃でのピロリ菌除去、腸内での善玉菌を増やし、悪玉菌を減らすことで腸内環境を改善する効果も明らかになっている。

また、マヌカハニーのユニークな点として美肌、美容効果も期待できる点が挙げられる。

通常のハチミツと異なり、マヌカハニーは抗酸化作用をもち、アンチエイジング、美肌効果が期待できる。同社はさらに同じ抗酸化物質を含むローヤルゼリーやプロポリスとの組み合わせも提案している。

これはむし歯菌と歯周病原菌の除菌効果に由来している。むし歯菌であるミュータンス菌への効果についてアカシアや、ライム、そばなど各種ハチミツ製品と比較し